



水仙を嗅ぐ水仙に鼻ぶつけ

井口夏子

水仙の香りを嗅ぎたいと鼻を近づけた様子を、「鼻ぶつけ」と誇張したところがいいね。上品な水仙と俗な表現の「ぶつけ」を取り合せたのが「技」。



爺好み冬のスタイルふところ手

横山洋子

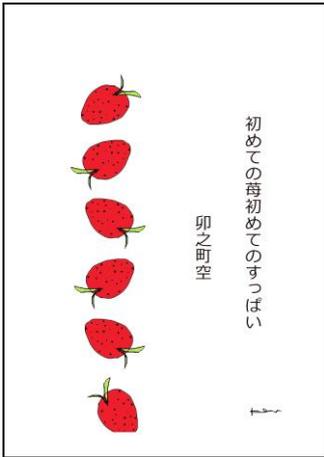
この句には閑を持て余して所在ない爺を温かく見守る作者がいる。爺ちゃんは懐手が好きだが、懐手をしている爺ちゃんが作者の一番の好み。



そちこちで初を拾って初句会

藤森荘吉

初句会に参加する日の様子が生き生きと描かれた。句会で詠むための句材を探しながら会場に向かう。材料をどう料理するかは腕の見せ所。



初めての苺初めてのすっぱい

卯之町空

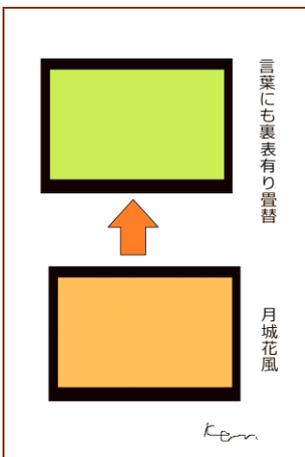
新年になって初めて食べる苺は、「初めての苺」だが、「初めてのすっぱい」とは面白い。ということは、「初めての苦い」や「初めての辛い」などもあるね。



手足まだ踊り足らざる祭の子

三木雅子

踊り足らないのは子ども本人だが、手足を主語にして滑稽句になった。体には祭囃子の余韻が残っているのだ。祭が終わる寂しさも伝わって来る。



言葉にも裏表有り畳替

月城花風

畳表は表と裏をひっくり返して新しくする方法がある。真新しくなって気持ちがいい。裏返すと畳はきれいになるが、言葉の場合はめんどろになる。